

国語

出題の傾向

出題の傾向 昨年度と同じく、①～③の大問3つの出題となりました。①の現代文は例年通り、評論文から漢字・語句の意味・品詞の識別・内容把握などを出題しました。また、②では「思考力・判断力・表現力」を問う形式の問題を、③の古文は、随筆や説話などから、語句の意味・内容把握などを、これも例年通り語注や現代語訳で補助をして出題しました。各問題の配点は、現代文50点、新しい学力観に基づく問題25点、古文25点となっています。では、以下に本年度の入試について詳しく解説していきます。

2023 今年度の出題と解説

①の現代文は、『スマホを捨てたい子どもたち』（山極寿一）からの出題でした。コミュニケーションについての身近な問題を取り上げた文章で、全体的には読みやすい内容であると思います。また、設問自体もこれまでと同じ傾向で出題していますので、しっかりと練習を積んだ受験生にとっては、スムーズに取り組める問題だったようです。

問1 漢字の問題

中学校までに学習した漢字の書き・読みから出題していますので、学校の授業などで漢字の学習をしっかりと積んで下さい。全体的によく勉強ができていましたが、書き取り問題では、㉞「交渉」、読み取り問題では ㉟「こわいら」の正解率がやや低かったです。特に、「渉」の漢字の右側、「歩」をきっちり書けていない解答がいくつかありました。日頃の勉強から、正確に読み書きをする学習を心がけて下さい。また、漢字を読み書きする力は、問題集などで鍛えることはもちろん大切ですが、読書や新聞、携帯配信のニュースなど、日常生活の中で活字を読むことで鍛えられる場面も非常に多いです。日頃から、意識的に言葉に触れる機会を増やしてみてください。

問2 国文法の問題（品詞の識別）

本校で毎年必ず出題される問題だけに、きっちりと対策を立てて勉強してほしいと思います。この問題は、毎年、きちんと対策をしてきた生徒とそうでない生徒の差が大きく表れます。㉑は、後の「域」という名詞（体言）を修飾（＝詳しく説明する）言葉ですから、力 連体詞 が正解となります。㉒は、「及ぶ」という動詞の下にあり、動詞に「打消」の意味を添えています。ケ 助動詞 が正解です。なお、助動詞「～ない」については、形容詞「ない」との見分けが重要ですので、チェックしておきましょう。㉓は、「～い」で終わる形に戻せるところがポイント。終止形は、「大きい」という状態を表す言葉です。イ 形容詞 となります。㉔は、5つの中では、最も正答率の低い問題でした。「おそらく」は、「言っている（動詞）」の部分を修飾していますね。用言（動詞・形容詞・形容動詞）を修飾する働きをするのは、オ 副詞 です。㉕は、「～だ」で終わる形に戻せるところがポイント。終止形に戻すと、「抽象的だ」という状態を示す語となります。正解は ウ 形容動詞 となります。

問3 空欄補充の問題（選択）

空欄に、適切な接続詞を入れる問題です。頻出かつオーソドックスな問題です。それぞれの言葉の持つ働きと、空欄の前後の文脈を読み取る力が必要です。A は、空欄の前の「言葉でルールをつくっています」を、後の部分で分かりやすく言い直しているので、具体例をあげる言葉である オ たとえば が入ります。B は、空欄の前の部分に「よい作用」、後の部分に「ネ

ガティブな作用」とあることから、逆接の ウ しかし が入ります。C は、空欄の前後で、スマホだと礼儀や敬語を気にしなくて良い → 相手によって変えることをしなくなる という、原因と結果の関係が成り立っています。「前にある内容を理由として順当に後ろの内容が起こる」ことを導くのは、順接の ア だから が正解です。空欄補充の三問については、どの問題もとてもよくできていました。

問4 空欄補充の問題（抜き出し）

本文の内容を理解して、まとめられた一文内に必要な漢字四文字をあてはめるタイプの問題でした。設問の説明文をしっかりと読み、本文との見比べをしましょう。本文の傍線部①「行動文法」の周りの表現からは、「ゴリラの行動文法（行動の決め手、判断基準）は、瞬間瞬間の理解で、言葉だけでは表せないものだ。」と読み取れるはずですが、設問の説明文にある「 によって判断して互いの関係を調整していました。」と同意ですね。ということは、「瞬間瞬間の理解で、言葉だけでは表せない = によって判断し、調整する」とまとめられます。そこでもう一度本文を読むと、次の文にある「身体感覚でさまざまな問題を解決」「直観で判断して互いの関係を調整」という部分が、「瞬間瞬間の理解で、言葉だけでは表せない = によって判断し、調整する」と同意であることに気づくと思います。最後に、設問の条件である「漢字四文字」にあてはまる言葉を探せば、身体感覚 が正解になります。

問5 空欄補充の問題（抜き出し）

これも問4と同じタイプの問題です。設問の説明文をしっかりと読み、本文との見比べをしましょう。大きなヒントは、設問の説明文にある「 が許容され」の部分です。これは「文字を介した理解」についての説明ですから、あとは本文中で、「文字を介した理解 = が許容される」という内容が書かれている部分を探すだけです。次の段落を見ると、「文字は読み手本位のコミュニケーションツールであって、……読み手の勝手な解釈が許されます。」とありますので、ここが九字で抜き出すという条件にもあてはまり、正解となります。

問6 語句の意味を答える問題（選択）

常に言葉に触れる機会を増やすことが大切です。本やニュース、新聞などでわからない言葉があった時、すぐに言葉の意味を調べたり、聞いたりして「語彙力」を増やすことで、こういう問題に対応する力が身についていきます。国語の基礎となる力でもありますから、日頃から、言葉に敏感になっておく姿勢を養っておきましょう。また、文の流れや使われている漢字からどんなイメージの語なのかを確認することも重要です。例えば、㉖は「緩（ゆるめる）」「衝（衝撃の“しょう”）」という漢字の意味か

ら、選択肢をしぼることができます。

問7 内容把握の問題（記述）

まず、設問の要求をしっかりと理解しましょう。傍線部からは、「ラインは対話と同じような信頼関係を作れるという論理には、二つの意味で間違いがあるがそれは何か？」を聞かれていると読み取れます。一点目は、傍線部の次の段落に書いてある事を述べましょう。述べるべきポイントは、A「言葉は抽象化されたもの」だから、B「言葉だけで相手の感情は分からない」点です。対話をしていると、表情や身振り手振り、話し方や声のトーンなど、相手の感情について得られる情報が言葉だけよりも多くあるといえます。配点は、Aの記述に1点、Bの記述に1点となります。二点目は、その次の段落に書いてある内容です。特に大切な部分は、「相手の言葉を受けて考えた結果出てきた文字は、その瞬間に自分の胸に生じた感情とは異なる」という点です。つまり、肉声だと、お互いに話した瞬間に感情が生じ、その感情を互いに感じ取りながら次の話を考えますが、文字では、お互いのやりとりで時間差ができてしまう上に、お互いのやりとりで生じた感情を文字で表現はできません。そこが大きな違いです。記述ポイントとしては、A 相手の言葉を受けた瞬間に生じた B 自分の感情を相手に伝えることができない点のA、B 2つの記述にそれぞれ1点です。なお、「文字化することで、時間的な要素が加わる」という解答は、ポイントの具体的な内容が書けていないので、△1点となります。

問8 空欄補充の問題（選択）

問4、問5にもありましたが、空欄補充の問題を解くコツは、近くの記述からヒントを得る事です。まず、Xの前にある「そういうとき」という部分から、ヒントはその前の部分にある事がわかります。もちろん、「そういうとき」とは、「誰かに会いに行くとき＝服装や身だしなみを考える、相手によっては敬語を使う（目上の人と会う）とき」ですね。その時に生まれる感情は何かと考えられたら、正解にたどり着く事ができるはずです。正解は、ウ 緊張感 となります。

問9 会話文の問題 内容一致（○×）

本文中の内容とそれぞれの人の意見が一致しているかを確認します。本文の内容をしっかりと理解できていれば、それほど難しい問題ではなかったと思います。Aさんの発言は、1ページ12行目以降に記述がありますので、○です。B君の発言は、3ページの後半に、トラブルについての記述がありますので、×です。Cさんの発言は、2ページ後半に記述がありますので、○です。Dさんの発言は、本文に「詳しい説明」「絵文字」が有効であることの根拠となるような記述がありませんので、×です。

②の問題は、「新しい学力観に基づく問題」です。この問題は、複数の資料から設問に必要な情報を選び、取り出して、適切な解答を選んだり、作り出すという内容になっています。また、これからの学習で最も重要となる、「論理的思考能力」をはかる問題でもあります。

問1 論理的読解の問題（選択）

ここでの「やさしい」は、B君やDさんの発言内容から、「外国の方にも分かるように、難しい言葉を使わない」ことだと理解できますので、「今後の＝このあとの」「注意して＝気をつけて」のように、より簡単な言葉に言い直しているイが正解となります。ウは、可能性という言葉を使うことで難解になってしまっているので不正解です。

問2 情報処理・表現力の問題（記述）

プリントの他の記述も参考にしましょう。プリント内では、

名詞や動詞などを中心に、同意の理解しやすい言葉に変更していることが見てとれるはずです。これと同じ方法を取れば、A「公共交通機関＝電車やバスなど（の乗り物）」B「ご来場下さい＝来て下さい。」と書き換えることで、「やさしい日本語」にすることができます。Aが2点、Bが1点です。ちなみに、Bで「お越し下さい。」という解答がありましたが、敬語は外国人にとって理解が難しい表現ですので、不正解となります。

問3 資料読解の問題・論理的読解の問題（選択）

まず、Ⅱに入るのは、A君の発言にある「日常生活に困らない程度の日本語ができる」外国人の割合です。これは、資料2の「日本人と同程度に会話ができる」「仕事や学業に差し支えない程度に会話ができる」人たちも含まれますので、合わせて82%になります。よって、正解はエです。次に、Ⅲですが、A君の発言をよく読んで判断します。書き言葉は、「相手の様子を見ながら言い直したり情報を追加できる話し言葉」のようにはいかないのですから、「相手の様子を見られない、言い直しや情報の追加ができない」ものだと判断できます。つまり、ケ 一方通行の情報発信 なのです。

問4 論理的読解の問題（選択）

傍線部にあてはまらないものを選ぶので、「人の往来が少ない場所、誰もが行くとは判断できない場所」を選びましょう。正解は、ア 地域の商店街や個人商店 となります。

問5 情報処理・表現力の問題（記述）

この問題のポイントは、Dさんが、「やさしい」を「易しい」だけではなく、「優しい」事が大切と語っているところです。これを三十字程度で具体化するのですから、直前のA君の発言を参考にして考えると、書くべき内容は、「優しさ＝A 相手のことを思いやる気持ち B どう伝えれば相手が理解しやすいか考える気持ち」といった要素になります。Aが2点、Bが2点になります。なお、解答に「簡単に」という言葉が入った時点で、「易しい」の具体化となってしまうので、0点の解答になります。気をつけて下さい。

問6 情報処理・論理的読解の問題（選択）

リーフレットの内容から、必要な情報を取り出して答える問題です。まず、（①）については、直後に「読み手にとって必要な情報に絞る」という表現がありますので、ウ 取捨選択が正解となります。次の（②）は少し難しかったかも知れませんが、「原語」という言葉（翻訳していない、もとのままのスペルの外国語）や、「発音」という言葉が関係するところを読み取ることができれば、正解のエ 外来語 が導けたと思います。この部分は、「和製英語」などの事を言っているのですが、連想できたでしょうか？最後に、（③）については、後のリーフレット内の説明を読めば、キ 表記 を答えることは難しくなかったと思います。

③の「古文」の問題は、江戸時代の仮名草子「理屈物語」（室町時代の軍記物語「太平記」の再録内容）からの出題でしたが、ちょっと経済学的な面白いお話でした。話の流れは分かりやすく、現代語訳をつけている部分もありましたので、丁寧に読めば、話の大筋をつかみ、得点できたと思います。まずは、現代語訳を載せておきます。

【 現代語訳 】

むかし、鎌倉の八代執権北条時宗と九代執権貞時の二人に仕え、引付（所領の訴訟裁判を扱う仕事）に従事している、青砥左衛門という武士がいた。ある時、この青砥左衛門は夜に入って勤めにしたが、いつも燵袋に入れていた銭十文を、滑川に落としてし

まった。わずか十文（現在のお金で450円～600円ぐらい）の事であったので、無視して出仕するべきなのに、たいそうあわてて、川のほとりの町屋へ人を走らせ、銭五十文で続松を十把買って（川に下り）、続松を灯して遂に十文の銭を探し出した。後日に人がこれを聞いて、『十文の銭を探すのに、五十文で続松を買って灯すとは、大損ではないか』と笑われると、青砥左衛門は眉をひそめて（理解できないといった顔で）、『これだから、私をこのように批判する人は、世の費（世の中が弱る事）をも知らず、民を恵む心もない人たちだというのだよ。落とした銭十文をその時さがさなければ、滑川の底に沈んで永遠に失ってしまったであろう。（それに対して）わたしが続松を買った五十文の銭は、商人の家に残って長い間失われることはない。我が損は商人の利益となった。彼と我を区別してどうする。かれこれ六十文の銭を一文も失うことがなかったのだ、天下にとっての利益ではないか』と言った。

問1 主語把握の問題（選択）

登場人物の行動をしっかりと整理しながら読めば、それほど難しい問題ではなかったと思います。現代語訳を参考に、解答を確認して下さい。古典では主語を省略した文章が多いですから、問題演習の際には、しっかり誰の行動かを確認しながら読み進める練習が効果的です。

問2 内容把握の問題（選択）

正確に現代語訳しているものを選ぶ問題です。話を聞いた人は、「小利＝青砥左衛門が十文を見つける利益 大損＝青砥左衛門が続松を買うのに使った五十文」と考えているので、その文意に合うものを選びましょう。アについては、一見正解に見えますが、「大損＝大金」と訳せないですし、話を聞いた人にとって五十文が大金かどうかは本文中から判断できませんので、不正解です。正解は、イ となります。

問3 語句の意味を問う問題（選択）

「まゆをひそめる」は、不快な言動に対して表情を変える事を意味する言葉です。ここでは、青砥左衛門が「十文を見つけることに五十文の松明を買って大損をした」と笑われた事に対して、納得がいけない事から表情を変えていますので、「怒り」や「馬鹿にする」ではありません。また、「驚き」もここでは不適当です。よって、エ が正解になります。

問4 内容把握の問題（抜き出し）

商人の利益は、青砥左衛門が買った続松の代金である五十文です。これを具体的に示している十二文字のところですから、続松をかわせたる五十の銭 が正解になります。

問5 内容把握の問題（記述）

六十文を失っていないということは、十文を探すのに五十文を払って損をした（ $10 - 50 = -40$ ）ではなく、十文も手に入り、五十文も手に入った（ $10 + 50 = 60$ ）という考え方が大切になります。つまり、十文は探し出すことで青砥左衛門の手に戻り、続松を買うために使った五十文は、商人の手に残る（世の中で活用される）のです。言い換えれば、六十文のお金はこの世からなくなったのではなく、全てが人の手に残り、世の中で有益に使われているといえます。この考え方をしっかり記述できている解答は正解となります。ただし、十文を探すのに「たいまつを買う」という経済活動が記述されていないと、五十文のお金の動きが分からないので、1点減点となります。

問6 内容把握の問題（選択）

この話の教訓となる部分です。古文のお話は、何かを読む人に伝えたいがために書かれた作品が多くあります。この話では、世の中の利益になることならば、自分の損得などは取るに足りないと考える事の大切さを説いています。この考え方に合致しているものは、ウ となります。

問7 内容一致の問題（選択）

本文の内容と合致するものを選ぶ問題は、本文としっかり見比べ、本文に書かれていないものを消去していく方法を取ると確実に正解できます。正解はイ となりますが、他の選択肢のどこが間違いなのか、上の現代語訳を参考にしながら丁寧に確認してみましょう。

現代文の問題は、設問から、「何を答えれば良いのか」ということを読み取った上で、本文をじっくり読めば必ず解答を得られるようになっていきます。練習の際には、たまたま正解した、間違っただけで一喜一憂するのではなく、自分でしっかりと根拠を持った解答をし、解答に至る道筋が本当に合っていたのか、しっかりと解説を読んで理解しましょう。時間がかかるかもしれませんが、そうすることで本当の実力がついてきます。また、日頃から読書の機会を持つことで、語彙力を増やし、文のつながりや構造を理解する力＝「読解力」を養うように心がけましょう。来年度も、「漢字・口語文法（品詞の識別）・語句の意味」など基本的な言葉の知識を中心に出题する予定です。本校独自の問題については、必ず得点できるように対策を立てることが大切ですが、全体的には、中学校の授業で学習したことを正確に身に付けることを心掛け、問題を一つでも多く解くようにしてください。また、日頃から常に文章（活字）に触れることが一番です。読書を通じてしっかりと読解力をつけ、問題演習を通して、本文の中から答えを探し出す訓練を積んでください。また、学校によっては古文への取り組みが少ない学校もあるかも知れませんが、本校の古文の問題は、現代語訳での補助も多く、主に「文脈を判断する」問題になっていますので、日頃から古文に触れておくだけでも十分な対策になります。市販の問題集などを使って、文中の分かる言葉をつなげて、話の大筋をつかまえる練習を積んでおくのも良いでしょう。新しい学力観に基づく問題については、今年と同様に、それほど特異な出題はしませんが、やはり何も対策をせずに本番を迎えるのは不安だと思います。学校などでも同じような問題に取り組む機会があると思いますし、近年では全国の公立高校で同様の問題が多く出題されています。学校の授業での演習の機会を大切に、公立高校の過去問題を調べたりして、地道に練習を重ねてほしいと思います。また、直前入試対策説明会（12月）では、模擬問題（新しい学力観に基づく問題）の解説を予定しています。本校で実際の問題に触れてみるのも貴重な経験になりますので、是非足を運んでください。最後に、国語力は、全ての教科の基礎と言われています。国語の力が伸びれば、他の教科にも必ず良い影響をもたらすので、しっかりと勉強して下さい。

対策と アドバイス